

訓練した同期生で、昭和五十二年に読売グラウンドで第五回同期会をやった時、端野いせさんと歌手の菊地章子さんを招待して慰労し励ましたことがあり、それから母いせさんとは文のやりとりや電話も時々頂いたが、昭和五十六年に亡くなるまで新二君は生きていると信じているようであった。しかし新二君は昭和二十年八月十三日の磨刀石の戦闘で亡くなったのであり、中国での生存説が一時あったが、真実ではなく、勿論シベリアにも行ってはいなかったのである。

## シベリア抑留記

愛媛県 中泉 正一

生年月日 大正十二年一月三日

出生地 京都府亀岡市

職歴 満州開拓青年義勇隊 大日本セロファン

株式会社 関電興業株式会社総務部

軍歴 昭和十八年満州黒河にて甲種合格

### 終戦

昭和十九年二月二十五日ハルビン三七九部隊（近衛山砲二八連隊）に入隊 連隊指揮班

### 抑留まで

昭和二十年八月十八日延吉南三十キロ地点にて終戦  
 延吉旧一三二八部隊跡に集結、一大隊三〇〇人編成。九月中頃移動開始、日本に帰る名目で満ソ国境に行軍する。途中人馬の屍体を見て手を合わす。男装の日本婦人に会う、散切り頭の汚れた顔がいたましい。三日くらいで国境に到着、シベリア鉄道の貨車に乗せられて、列車の進行方向に気付き騒いだが後の祭りであった。コムソモリスクに着き、そこからトラックで四十キロほど離れた收容所に入った。

### 抑留地

第一一一、一一二、一一三分所

### 作業の種類

伐採、運搬、積込み、最後に街に出て建築

## 体格検査

一級。女医が尻をひねって硬さで判定

## 当時の状況

捕虜生活で一番の関心事は食べること

だ。黒パン三〇〇グラム、カーシヤ（お粥）少し、塩サンマー尾、これが一日の食分量だ。早朝の配給が済むと、朝と昼食は一度に食べてしまう。少しは腹に入ったような気持ちになる。そのため昼はサンマのスープに雑草を入れて間に合わせ。一日のきつい労働が済むと空腹でたまらんようになる。そんな時の事件が「辻斬り」である。朝の食事配給後、宿舎に帰る途中、生命より大切な黒パンをさらって逃げるのだ。実になげかわしい事件であった。

ある夜、私達は相談の結果、宿舎の近くに停まっている貨車に積み込んだ乾パンを返してもらおうことになった。もともと日本軍の食糧である。深夜一時頃、私と友は警備兵の移動を見定めて貨

## 作業

車に忍び込み、乾パン一箱を持ち出し鉄条網をくぐろうとした時に、影を認めたのかマンドリンの乱射を浴びた。もう駄目だと思いつつ凹地に伏せていた。三十分くらいたって警備兵が立ち去ったので、ほうほうの態で宿舎に帰り、みんなで久し振りに乾パンにありついて大いに満腹した。

作業ノルマをどんどん上げられ、体力のない召集兵の人々は過労と栄養失調で倒れ、毎日入院者が出る有様だ。ある時は、伐採作業で木を伐り終わった瞬間急に根元が回転して、近くにいた友がその下敷きになり即死した。何分、空腹と栄養失調のために瞬時に危険をかわすことが出来なかった。

朝と昼食は先に書いたが、夕食はその日のノルマ遂行量で差が出る。遂行者は砂糖やタバコが特別支給され、黒パンも

## 食事

## 被服

多いが、未遂者は小さいパンと塩サンマのスープだけである。

被服は、囚人の古い汚れたのが支給される。

## その他

日常生活で困るのは紙（落とし紙）の支給がないことである。最初のうちは持っていた本で間に合わせたが、それがなくなると服の綿を抜いては使用した。それも限度があり、用を足す場合は、作業に行った時に木や草の葉を使用した。また、便所は何の仕切りもなく、顔を見合わせながら行った。

夕食後は共産主義の講義が行われる。これに従わないと反動分子として大衆の面前にて吊るし上げられる。また婦国も遅れる。私は非協力者として昭和二十四年の八月の末まで残された。

## 強制抑留されて

熊本県 坂本重喜

大正十四年一月二日、熊本市春日町（北岡神社裏）に生まれ、五福高等小学校に学び、同青年学校へと進んだ。父は鉄工所を経営しており、学業の傍ら工場の手伝いをしていた。

昭和十九年七月徴兵検査を受け、近視のため第二種だった。ところが、同年十月には熊本の十三連隊に入隊、その夜、自宅近くの北岡神社境内で夜営をし、そのまま汽車に乗り、門司へと移動、入隊して熊本には一晩いたただけだった。

釜山に上陸し、ハルビンを通りハイラルの国境守備隊へ配置された。迫撃砲隊に配属され、昭和二十年八月初め嫩江へと移動中チチハル付近で終戦を知った。同年八月十八日武装解除され、三週間収容所において、千五百人の作業大隊を編成、貨車でクラスノヤルスク